

温泉成分表

源泉名 倉真温泉 倉真3号

湧出地 掛川市倉真字寺向 5437

湧出地における調査および試験成績

調査及び試験者	一般財団法人静岡県生活科学検査センター 那須野晃享 松永豪
調査、試験年月日	平成25年9月19日
泉温	20.1°C(調査時の気温 23.0°C)
湧出量	10.7L/min(自然湧出)
知覚的試験	ほとんど無色透明、弱硫化水素臭味
水素イオン濃度	pH 9.5
電気伝導率	45.4mS/m

試験室における試験成績

試験者	一般財団法人静岡県生活科学検査センター 那須野晃享、松永豪、杉本綾矢佳、大橋麻衣子、 石川雄一
分析終了年月日	平成25年10月17日
知覚的試験	ほとんど無色透明、無味無臭
密度	0.9995(20°C/4°C)
水素イオン濃度	pH 8.72
蒸発残留物	0.323g / kg (110°C)

試料 1 kg 中の成分、分量及び組織

成分（陽イオン）	mg/kg	mval/kg	mval%
ナトリウムイオン	119.6	5.20	98.30
カリウムイオン	0.7	0.02	0.38
カルシウムイオン	1.4	0.07	1.32
陽イオン計	121.7	5.29	100.00

成分（陰イオン）	mg/kg	mval/kg	mval%
炭酸水素イオン	161.3	2.64	51.66
炭酸イオン	33.7	1.12	21.92
水酸化物イオン	0.5	0.03	0.59
塩化物イオン	15.8	0.47	9.20
硫化水素イオン	7.2	0.22	4.31
チオ硝酸イオン	1.4	0.02	0.39
硫酸イオン	25.5	0.53	10.37
メタホウ酸イオン	3.6	0.08	1.57
陰イオン計	250.0	5.11	100.00

非解離成分	mg/kg	mmol/kg
メタケイ酸	22.0	0.28
非解離成分計	22.0	0.28

溶存ガス成分	mg/kg	mmol/kg
溶存ガス成分計	0	0

成分総計	0.394g/kg
------	-----------

その他微量成分	mg/kg	その他微量成分	mg/kg
マグネシウムイオン	0.07	臭化物イオン	<0.05
アルミニウムイオン	<0.05	ヨウ化物イオン	<0.05
マンガンイオン	<0.05	遊離硫化水素	<0.1
鉄(II)イオン	<0.05	総リン酸態リン	<0.03
鉄(III)イオン	<0.05	総ヒ素	<0.005
銅イオン	<0.05	—	—

泉質 単純硫黄冷鉱泉（低張性・アルカリ性・冷鉱泉）

療養泉の適応症 糖尿病、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進、切り傷、慢性皮膚炎、慢性婦人病

療養泉の禁忌症 急性疾患（特に熱のある場合）・活動性の結核・悪性腫瘍・重い心臓病・心臓病（ただし高温浴の場合）・呼吸不全・腎不全・出血性疾患・高度の貧血・高度の動脈硬化症（ただし高温浴の場合）・高血圧症（ただし高温浴の場合）
その他一般に病勢進行中の疾患・皮膚、粘膜の過敏な人（特に光線過敏症の人）

浴用上の注意事項

1. 温泉療養に際しては、温泉について専門的知識を有する医師の指導を受けることが望ましいこと。
 2. 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当り1回程度とすること。その後は1日当り2ないし3枚回までとすること。
 3. 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間とすること。
 4. 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり（湯さわり又は浴場反応）が現れることがある。
「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復をまつこと。
 5. 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
 - (1) 入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、なれるに従って延長してもよい。
 - (2) 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。
 - (3) 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない。（湯ただれを起こしやすい人は、逆に真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい）
 - (4) 入浴後は、湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
 - (5) 熱い温度に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意すること。
 - (6) 食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。
 - (7) 飲酒しての入浴は特に注意する。
-